

巻頭言



宮澤賢治センター三年目への期待

(岩手大学内)

(題字／金森由利子)

第5号

発行人

〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 岡田幸助

目次

- 巻頭言 岩手大学学長 賢治センターの歩み 1
- 第2回総会の開催結果 新代表・新理事の挨拶 2・3
- 総会記念懇親会 4・5
- 定例研究会の概要 「ミニ茶話会」の話題 6～9
- 宮澤賢治記念短歌会 10・11
- 全国宮澤賢治学生研究会 12・13
- 特別寄稿 (龜井茂氏) 14
- 「経理ムベキ山」登山 賢治の音楽を聞く会 15
- 事務局員の紹介・編集後記 16

総会と記念行事の開催

宮澤賢治センターは、平成18年6月1日に発足し、種々の行事を開催しながら会を運営しています。この実績を踏まえて、第二回総会を次のとおり開催し、事業報告・事業計画、役員の選任がそれぞれ承認されました。

事務局会議・役員会

(平成20年3月以降)

当センターの円滑な運営を図るため、毎月一回、代表・副代表及び事務局関係者が集まり、事務局会議で原案を練り、定例の役員会で、事業を計画・実行しています。

定例研究会の開催

当センターの主要事業として、平成18年6月の第1回以来、毎月一回を目標に開催しています。本号では平成20年2月20日の第18回から、同年7月10日の第23回までの開催概要を、6頁以下に掲載しました。

ミニ・茶話会の開催

定例研究会は、質問時間を含めて一時間となっていますので、一寸物足りなく思う人も多かったようです。これらを踏まえて、昨年7月20日の第12回以

学生研究会の開催

岩手大学・県立大学・盛岡大学を会場として、毎月定例的な研究会と読書会を開催しています。(詳細は12頁以下に記載)

降、毎回開催しています。ビールやコーヒーを飲みながら、うち解けた雰囲気での一時間の懇談は、参会者の好評を得ています。(詳細は9頁に記載)

ある6月26日に開催された宮澤賢治センター第2回総会には、一会员として参加し、引き続き懇親会にも出席しました。センターの集まりに出て感じるものは、会员の顔ぶれが老若男女と多岐にわたること。しかも皆さん表情が穏やかで、お話ししているところも気分が和んでいます。やはり賢治の作品を愛する人は次第に性格も柔軟になるのですと一人納得しました。

当方、余り熱心な会员ではなく、昨年11月の例会で「宮澤賢治の生きた時代」と題して話題提供した程度です。ここでは冒頭で、賢治の作品の魅力はことばの響きの心地よさとオノマトペの豊富さ、それによるリズム感、情感の發揮にあると述べて、その例として私が教科書で

学んだ賢治作品、高校現代国語の『永訣の朝』を紹介しました。しかし実のところ最初に教科書で触れた作品は、小学校3、4年生の頃の『處士公園』に違ありません。少し知恵の遅れた處士、親に初めて頼んで買った杉苗七百本を大事に育てた結果、亡き後も子供たちに愛される公園へと受け継がれます。子供たちが元気よく掛け声をかけて杉林を行進する」というイメージが(確かに挿し絵とともに残っているのですが、改めて原文を確かめると三角帽には触れられていません)。

そしてこの話の壇というべき、村出身でアメリカの大学教授となっている若い博士の述懐

◆◆◆新代表に岡田幸助氏を選任!

宮澤賢治センター役員・事務局名簿

(理事・幹事はアイウ工才順、※は新任)

代表代理	岡田 幸助	岩手大学ミュージアム館長
同	望月 善次	岩手大学名誉教授・盛岡大学学長
同	姉歎 武司	岩手大学工学部卒業生
同	飯村 裕樹	岩手大学教育学部
同	石川 格司	岩手大学農学部北水会専務理事
同	小野 伴忠	岩手大学農学部附属農業教育資料館長
同	亀井 茂	岩手大学農学部附属農業教育資料館研究員
同	黒澤 勉	岩手医科大学教授
同	桑島 博	岩手大学農学部北水会会长
同	鈴木 幸一※	岩手大学地域連携推進センター長
同	須藤 宏明	盛岡大学教授
同	玉 真之介	岩手大学理事・副学長
同	中村 安宏	岩手大学人文社会学部准教授
同	早川 浩之	岩手大学研究協力課専門員
同	藤田ハミド	岩手県立大学教授
同	向井田 薫	岩手大学農学部北水会名誉会員
同	山本 昭彦	岩手大学人文社会学部教授
同	中村 安宏	理事兼任
事務局長	早川 浩之	同上
事務局次長	飯村 裕樹※	同上
幹事	姉歎 武司	同上
同	菊地 慧子※	岩手大学研究協力課主事
同	木村 風友※	盛岡大学文学部
同	柴田 良輔※	岩手大学教育学部
同	千田 調和※	岩手県立大学ソフトウェア情報学部
同	畠山 貴憲※	岩手大学大学院教育学研究科
同	向井田 薫	理事兼任

岡田新代表の挨拶



第2回の総会で、当センターの代表交代と、新理事の選任が承認されました。

新代表と新理事の挨拶

富澤賢治センター代表

岡田 幸助



岡田新代表の挨拶

会員相互の関心を結集!

富澤賢治センター代表

岡田 幸助

富澤賢治センター代表

贤治さんは、「当センター」長を拝命して彼から学ぶ課題は、地域貢献の本質的なテーマである。

贤治さんは、「当センター」を中心として多面的に研究されていくが、「推進センター」長を拝命して彼から学ぶ課題は、地域

貢献の本質的なテーマである。

(向井田薰記)

贤治さんは、「当センター」を中心として多面的に研究されていくが、「推進センター」長を拝命して彼から学ぶ課題は、地域貢献の本質的なテーマである。

宮澤賢治センター第2回総会 平成20年6月28日

「宮澤賢治センター」の第2回総会が、平成20年6月26日(木)に、盛岡市産学官携研究センター(略称M.I.U.)で開催されました。ご来賓として岩手大学藤井克己学長の祝辞の後に、望月善次代表が議長となり、事業報告・事業計画・役員の選任の3議案について、中村事務局長が説明し、原案のとおり

賢治への想いは熱く！

歓談！

「記念・パーティ」の参加者は、学生3人を含め、31名でした。

藤井学長の巻頭言にもありますように、老若男女お互いに和やかな雰囲気で過ごした2時間です。飲み物も沢山ありましたし、オツマミもマズマズ。会費2千円は安いですね？



祝代表就任

岩手大学ミュージアム岡田館長の、賢治センター代表就任をお祝いして、解説ボランティアの方々が多数参加しました。
左から、高橋、小泉、岡田代表、柴田、鳥谷の皆さんです。



飛び入り？

Aテーブルで歓談中の、藤井学長・玉副学長・望月盛大学長の席へ、花巻市の毛利友明さんが果敢に割って入り、撮影を依頼されました。かの有名な「毛利」家との関係は不明です。

(写真撮影・文責：向井田 薫)



話題は尽きることなく！

乾杯！

第2回総会の終了後、引き続き「記念・パーティ」が開催されました。岡田新代表の挨拶、来賓の玉副学長の乾杯の音頭により、「楽しい語らい」が始まります。



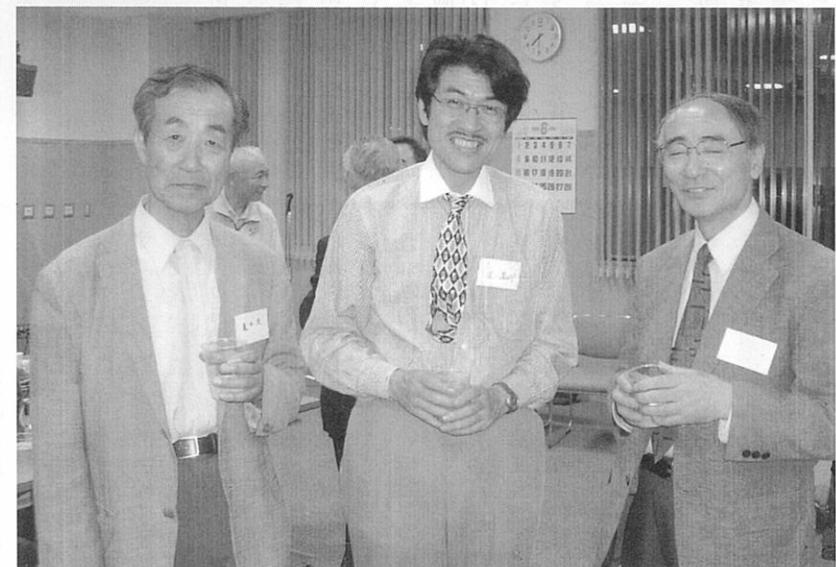
精神歌論？

総会に先だって、「意識の流れ」について講演した桜田講師。一昨年の開設記念、昨年の第1回総会記念と毎回欠かさず参加の伊藤利巳さん。二人は共に花巻市の出身。話題は賢治の「精神歌」でしょうか？



重鎮・3人

「宮澤賢治センター」の理事、3人です。それぞれ定例研究会の講師を務めています。右から、小野伴忠（第21回・本年5月）、玉眞之介（第9回・昨年4月）、亀井 茂（第4回・一昨年11月）の諸氏です。



岩手大学・農学部構内には、
掲示板になつてゐる賢治短歌が
三首ある。
次の三首である。
あはれこは 人にむかへるこ
ゝろなり

第20回 4月25日(金)

1階中会議室



分かり易く、本質的に説明する望月講師

と、エマーソンやソローを源流とする現代自然保護思想に通底している。それは「花鳥図譜、八月、山巔」に出現する希少動物の雷鳥と鳴兎への関心にも認められる。詩編「蠕虫舞手」では蠕虫（アンネリダ）の正体が蚊の幼虫とイトミミズのどちらなのかという謎も面白いが、アンネリダが生息していた手水鉢のミクロコズム（微小生態系）の動的世界を忠実に再現していることには驚嘆する。直感的であれ、彼は自然を生態系のようなシステムとして捉えており、エコロジストの資質を確かにもつていた。

当曰は標題にも示したこの三首を具体的な素材として、賢治の短歌はどうした魅力を持って戴いた。主とした留意点三点を示し、報告の一端としたい。

ひのきよまこと
なれはなにぞ
や
あさひふる
はくうんぽくの花に来て
黒きすがるら
しべを噛みあり
〔歌稿「B」〕 519
六月のブンゼン燈のよわほのほ
はなれて見やる
ぶなのひらめき
〔歌稿〔B〕〕 516



賢治の学んだ高農時代を再現する講演状況

▽会場 盛岡市産学官連携研究センター（略称、コラボ・M I U）1階中会議室

▽講師 岩手大学教授（人文社会科学系）山本 昭彦氏

▽演題 「宮澤賢治学会イー・ハトーブセンターについて」

△司会 中村 安宏

△参会者 二十七名。

第18回
2月27日(水)



イーハトーブセンターを説明する山本講師

でのセミナーや見学ツアー、と
活発な活動を展開している。会
員登録をすればこれらすべてが
利用できる ([http://www.kenji-
gr.jp/about_us/letter.html](http://www.kenji-
gr.jp/about_us/letter.html))。
センターの来歴、性格付け、市
のバックアップ、当初の苦労等
は「会報」13号（1996）に
小原敏男氏が書き留めているの
では是非一読されたい（当日配
布）。

テーマにした昨冬のセミナーの一部（私が担当した病院建築について）を紹介し、当時の花巻温泉（花壇設計）や「北守將軍」の物語との関連を述べた。ところで今年、大学の「研究専念期間」をパリで過ごすことが出来た。そこで賢治の「風」を撮りたい、と熱望している写真家に会った。日本語はわからず、日本を訪れたこともない。聞いてみると近年多数出版されているフランス語訳で読み、魅了されたのだという。訳者の友人でもあった。この訳者エレー・ヌ・モリタさんは私も前にセミナーの席で会ったことがあったが、今回再会することが出来た。モンゴルやカンボジアも撮っているこの女性写真家は花巻が盛岡に来たがつていて方法を模索していた。皆さんにお目にかかる日も近いかもしねない。

(山本昭彦
記)

△ 司会 中村 安宏
参加者 二十四名。

賢治の全童話には原生動物から脊椎動物にわたる八門、二十一綱に属する百六十六種類の動物が登場し、かつ彼の動物学的知識に裏打ちされた作品中の動物たちの行動は生物学的にも興味深く、別のこところで考察したことがある。本報告は同様の分析を詩作品について試みたものである。詩集『春と修羅』など全口語詩五百七十五篇のうち動物が出現する詩数は約半数の二百六十九編であつた。それらの詩に出現する動物は五門十三綱に属する百十五種(分類学上の種ではない)であつた。鳥、馬が圧倒的に多く、犬、ひばり、蛇と続く。全体的にみると、大部分が鳥類と哺乳類の脊椎動物と昆虫類の節足動物である。家畜を含む里地動物が卓越するという様相は童話と類似するが、鳥類がより高頻度に出現

のようすに詩作についても動物は重要な役割を演じている。つぎに詩篇に出現する動物を個別にみていくと、賢治の生物学的関心の所在を知ることができた。そのいくつかの事例を示す。まず、彼は野外で出会った動植物に対する分類学的知見に強い興味があつたようである。「属」とか生物種の学名や和名が詩文にストレートに記される。たとえば、種が特定できる昆虫としてはハグロトンボ（亜細亜学者の散策）とビロウドコガネ（「北上川は蒸氣をながし」）がある。いずれも花巻の生家周辺に現在でも生息しているので同定作業をしていたことが伺われる。童話「ナメトコ山の熊」ではまたぎの小十郎と熊の狩猟活動を介した複雑な関係が描かれている。この関係を読み解く

定例研究会の概要

壇を降りていった下の建物にある。ホールや2階に図書室も備

くらい出版は活況を呈している。さらに過去の出版物でリストに漏れていたものもあり、それらも順次補い、完全を目指している（一部は既に不ツトでも公開している）。

さらに当日は、賢治と建築をテーマにした昨冬のセミナーの一部（私が担当した病院建築に

1 隆中会講室
▽ 講 師 岩手大学名誉教授
吉田 勝一氏
▽ 演 題 「賢治詩の動物世界
—生物学的視点から—」
司 会 中村 安宏





嘉内が贤治に与えた影響は甚大である

等々。庸夫氏が大切に保管されていた貴重な資料を拝見するところが出来た。

善三氏、庸夫氏の行き届いた気配りと温かい歓迎。庸夫氏宅では、アザリアの花一輪が花瓶に飾られ、我々を迎えてくれた。

「今ならこんな事はあり得ない事件」。同窓会の「北水会名簿」にも中退として掲載されていること。岩手大学の学長訪問という形で、嘉内の名譽回復が事実上なされたとする保阪家や関係者の安堵の気持ちを汲み取ることが出来た。

話題は一転し、嘉内が甲府中学時代から弁論部に所属し、日本の農業についての理想像を描いていたこと、韭崎市内から望まれる八ヶ岳には、「風の三郎岳」（正式名称・阿弥陀岳）と言う北風の通り道が存在すること

〔三・茶話会便り〕

と、甲府盆地で見たハレー彗星の体験などを、二人だけの岩手山登山で賢治と語り合った事柄などをお聞きするに及び、嘉島が賢治に与えた影響が実に大きかったことを痛感した。

今回の山梨県・韮崎市、保阪家の訪問によつて、保阪嘉内・宮沢賢治の二人の関係の理解が一層深まつたので、これから岩手・山梨両県の連携に、こうを役立たせたいと思う。

(向井田薰 記)

「三一・茶話会」便り

△ 2月27日の講師、仏文学の山本先生を囲んで。

フランスで2名のフランス人女性が「銀河鉄道の夜」の仏訳を出版した。しかし、その二人の訳には大きな違いが有り、一人は西洋式の主格のぶれない主語がはつきりした翻訳で、もう一人は賢治の文のまま主格が代わり、又主語がはつきりしな

前にお供物を捧げた平山前学長の講演は、参会者に大きな感動を与えた。桑島・北水会長（前盛岡市長）や、「友情の樹」で岩手と山梨を結んだ、石田、前杜陵小学校長の発言もあり、講演会は大いに盛り上がりましたが、予定時間となり、有志らが隣室の「ミニ・茶話会場」へと移動しました。



右から平川講師、桑島会長、岡田代表、望月副代表。



活発な質疑・応答で予定時間はノット云々間に過ぎ去りました。

「稗貫郡地質及び土性調査」に参加している。きらめく石への興味に始まり、高等農林で土壤学の基礎（科学）をしつかり身につけた賢治は、花巻農学校の教師となり農業の基礎について教えることになる。さらに、慈悲の実践の場とし羅須地人協会を開き、農民への土壤診断や肥料設計を行うとともに恩師関教授が提唱した石灰による火山灰土壤の改良を手がけたが、病に倒れた。

しかし、彼の中にほとばしる慈悲の大きな炎は、高等農林で学んだ煌めく科学の宝石と、自分の生きる場である自然との対話の中で結晶となり、多くの文芸作品を生みだし、その輝きは今日ますます増大している。

第22回 6月26日(木)

第22回 6月26日(木)

△会場 コラボ・MIU
△講師 宮澤賢治研究家
△演題 「宮澤賢治作品中の
独特な心象語句」
校田 恒夫氏

宮沢賢治の時代の文学界は、意識の流れが主流だった。賢治と意識の流れの関係調査では、賢治作品の中では意識の流れの関係の表現が数ヶ所ある。幾つか例示。

①「天台、ジエイムスその他によれば」（賢治全集187頁）

これは、天台は天台宗。ジエイムスは心理学の意識の流れの著者、両者の時空、現実、事実の認識の内容、方法が似ている事の表現であろうと考えられる。

②「黒と白との細胞のあらゆる順列を作り……それが意識の流れです」（全集4巻187頁）

この文章の内容の意味は、意識の流れの理論通り主潮している。重要な内容の最初は、意識や精神は、その主要点を五に絞り主潮している。次に、意識や精神は、バラバラではなく常に連なり、変化していると、意識の流れの特性を、意識や精神の、連續性・継続性に置いて力説して説明している。

第23回 7月10日(木)

中学から盛岡高等農林学校農学科第二部（後の農芸化学科）に入学し、一年上級の賢治と自啓寮で同室となり、二人の交流が始まった。二年次の学業を終え農林を除籍処分となるが、二人が中心となつて発行していた文芸同人誌「アザリア」・第五号に掲載された嘉内の文章が原因であるといわれている。

平成18年10月に山梨県韮崎市で開催された「宮沢賢治・保阪嘉内生誕百周年記念事業」の式典に、岩手県の達曾知事から山梨県に「ぎんどろ」の苗木を贈呈したことが契機となり、岩手県勝部前総合政策室長と私の韮崎市訪問、嘉内のご子息との出会いが実現した。

本年4月20日、韮崎市役所に市長を訪問した後、保阪家先祖代々の墓前に、盛岡名物の南部煎餅と岩手大学の清酒を供えて嘉内の遺徳を偲んだ。嘉内の長男・善三氏宅を訪問すると、山梨の嘉内研究者20人も参加して、和やかな交流が図られた。

翌日は、次男の庸夫氏宅を訪問。そこでは、嘉内が賢治から受け取った73通の手紙、「アザリア」の原本6冊。そして、除籍に係わる父・善作が校長に宛てた書面、それに対する学校当局の公印の押された通印文書

宮澤賢治記念短歌会報告

「宮澤賢治記念短歌会」は、確実に毎月一回の会合を積み重ねている。

宮様達の休憩所にもなったことあるというこの由緒ある建物は、岩手大学農学部同窓会「北水会」の本部が置かれている場所もあり、ご存じの通り、「宮澤賢治センター」の看板が掲げられている場所でもある。

会議室となつていて二階が例会の会場であるが、ここには、熊本県の出身で、東京農業大学学長も務めた農学者の横井時敬（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。そこでどんな活動が行なわれているか。柱は二つである。柱は二つである。

（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。柱は二つである。

（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。柱は二つである。

（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。柱は二つである。

（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。柱は二つである。

（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。柱は二つである。

（よこい・ときよし、1860～1927）の「緊張」の額も掲げられている。柱は二つである。

連載 「入門・宮澤賢治の短歌(一)」

はじめに

「賢治短歌入門」の文章につ

いては、本通信第二号に第一回

を書いた。

「連載」と銘打つた

からには、

「一回のみで終わるわ

けには行かないでしよう。」と

いうのが向井田編集長の言。

以下七つの観点から第二回を

お届けしたい。

（一）賢治短歌研究の現状

賢治短歌の研究は、近年進展

しつつある。

その主要文献を踏

まえた動向については、第二号

に掲げておいたから、ここでは

繰り返さない。

ここでは、こうした近年の流

れを総括したとも言える佐藤通

雅本が出現したことのみを指摘

しておきたい。

佐藤通雅「賢治短歌へ」（洋々

な、筆者としても、『盛岡

短歌のほぼ全体に渡る連載を終

え（二〇〇八・三）、同紙には啄

木短歌と合わせての考察を連載

中であることを記しておこう。

（二）意義（1）盛岡高等農林

学校時代の主要ジャンル

賢治の短歌が見逃せないの

は、（宮澤賢治）誕生の重要な

場の一つである盛岡高等農林学

校時代の主要文芸ジャンルが短

歌であったことである。つまり、賢治は、（盛岡中学校時代

を含めて）盛岡高等農林学校ま

での文芸活動の多くを短歌の上

に注いでいたわけである。

また、賢治短歌は、他のジャ

ンルの種ともなっている。童話

には「銀河鉄道の夜」、「月夜の

でんしんばしら」等があるし、

短歌作品の頂点の一つ「青びと

のながれ」が文語詩「ながれた

り」となつていて例もある。

（三）意義（2）作品の質

しかし、賢治短歌は、単に盛

岡高等農林学校時代的主要文芸

ジャンルであつただけではな

い。ここでは、その具体に言及

している余裕がないが、そのレ

ベルも高いのである。だから、

「伝記的研究の補助資料」に止

めることは、余りにモッタイナ

いのである。

他のジャンルに移つて行つた

五 方法（1）とにかく読む

では、賢治短歌をどんな風に

して読めばよいか。

第一は、「とにかく読む」こ

とである。「敬遠しないで読む

ことである。

そうすることは、単に賢治短

歌の世界が拓かれるだけではな

い。賢治短歌への理解が、賢治

の世界をも見直させるのだと

いうのが筆者の実感である。

（四）意義（3）基盤の成立と

他作品の種

「賢治作品の基盤は、（結合比

喻（ことばとことはの結びつき

方が特異な比喩）によって成

り立つていて。」というのも筆

者の仮説の一つであるが、そ

うした「結合比喩」は、短歌の時

代に確実に成立している。

また、賢治短歌は、他のジャ

ンルの種ともなっている。童話

には「銀河鉄道の夜」、「月夜の

でんしんばしら」等があるし、

短歌作品の頂点の一つ「青びと

のながれ」が文語詩「ながれた

り」となつていて例もある。

（五）方法（2）実際に短歌を

作る

そうした一つの手立てとして

は他のジャンルへと移つて行つ

たのである。

（六）方法（3）基盤の成立と

作る

短歌を実際に作つてみると

ある。短歌や俳句に代表される

日本の定型詩歌の特徴は、（実

際、短歌・俳句の两者とも、五

音七音を基盤とした音数律の制

約のみである。）誰もが、取り

組み易い詩型なのである。

この特長を生かさない法はな

い。もう、敗戦等による西欧文

化に対する劣等感を背景にした

「第二芸術論」への迷信を捨て

てもいい頃ではないのか。

ちなみに、本センターの企画

の一つである「宮澤賢治記念短

歌会」も、多少理屈っぽく述べ

ればこうした理論的背景をもつ

て行われていることになる。

（七）方法（3）賢治短歌百首

カルタ

筆者としてまだ取り組んでい

ないのがカルタによる試みであ

る。向山洋一の「五色百人一首」

を生かした「賢治百首カルタ」

を実現したいと願つている。

（八）感想

つまりは、単に賢治短歌の意味を正當に評価する人間が周囲にいなかつた。」ことが主要因である。

というのが筆者の仮説である。

自身の短歌作品としての価値を認識しないままに、賢治の関心は他のジャンルへと移つて行つたのである。

（九）感想

平田真子（岩手大学教育学部3年）

感情を抑えられない太陽

に挑む季節が押し寄せて

いる

佐藤静子（盛岡市）

野茨の匂う坂道おりて来る二人はきっと恋をして

いる

佐藤静子（盛岡市）

なざしの宮澤賢治よまた

その父よ

「賢治の父」という役は本当に大変だと思う。長男賢治に耐え、最後は改宗まで行つた政次郎を除いては、（宮澤賢治）の誕生などなかつたのだと、切な

いのである。

吉田直美（盛岡市）

銀杏の葉指に遊ばせ街行

けばかなしみ色のモディ

リアニの目

五月の明るい光の中、モディ

リアニの絵を見に行つた。不思議と女性より男性を描いた絵の美しさが印象に残つた。瞳の

強!!感情を抑えることなく灼熱

と輝く太陽がうらやましい。

試験の前に、自分の感情に勝たなければならぬのだ。

向井田薰（盛岡市）

雲の果て茜に燃えて日暮れたり賢治の姿西に消え去る

大阪から花巻に向かう空の旅。真っ青な空の下、白い雲がモクモクと続く。やがて、雲が、茜色に輝く。無心に見とれるうちに、西の空は闇となる。

賢治はその中に消え去つた。

向井田薰（盛岡市）

雲の果て茜に燃えて日暮れたり賢治の姿西に消え去る

大阪から花巻に向かう空の旅。真っ青な空の下、白い雲がモクモクと続く。やがて、雲が、茜色に輝く。無心に見とれるうちに、西の空は闇となる。

賢治はその中に消え去つた。



事務局次長
(理事兼任)
はやかわ 早川 浩之
岩手大学地域連携推進センター専門員

岩手県宮古市出身。岩手大学地域連携の窓口を担当しています。多方面で、賢治センターのお手伝いを続けて行きたいと思っています。



事務局長
(理事兼任)
なかむら 中村 安宏
岩手大学人文社会学部准教授

長野県松本市出身。賢治センターでは、事務局として全体の調整役を務めている。また、毎月の定例研究会では、司会を担当。



事務局次長
(理事兼任)
いいむら 飯村 裕樹
岩手大学教育学部生涯教育課程二年

栃木県出身。現在、賢治学生研究会代表。



幹事
(理事兼任)
むかいだ 朝井田 薫
岩手大学農学部北水会名譽会員

セントラル通信の編集担当として、事務局会議に出席していくまです。盛岡生まれの盛岡育ちで、岩手県内でしか暮らしたことがないません。



幹事
(理事兼任)
あいな 姉歵 武司
岩手大学工学部卒業生

「宮澤賢治センター」で「賢治と音楽を楽しむ会」と『茶話会』を担当しています。平成18年6月の発足以来、「賢治センター」の基礎作りに頑張って参りましたが、「賢治の精神」が岩手大学の活動の柱になれるよう期待しております。



学生幹事
木村 風友
盛岡大学文学部三年

山形県出身。現在、盛岡大学啄木賢治研究会代表。本年度の研究会では「土神ときつね」を



学生幹事
千田 調和
岩手県立大学ソフトウェア情報学部四年

岩手県一関市出身。現在、岩手県立大学のケンジプロジェクトの学生代表。とくに、「表情から感情推定」を中心に研究している。



幹事
菊地 慧子
岩手大学地域連携推進センター主事

岩手県矢巾町出身。本年度から岩手大学に採用され、勤務期待の大型新人)。よろしくお願ひします。

取り上げ、考察中。賢治が生まれた岩手の地で賢治を研究することは貴重だと思います。そのことを活かしてこれからも様々な作品を読み深めていきたいです。

（向井田薰）

私は以前、政治家の秘書をしていました。自分なりに活動する中で改めて教育の重要性を認識し、教師になる志立て、社会入試で入学しました。年齢を重ねての入試なので、焦りや周囲の目を感じてしまうことが時があります。そんな時、自分を奮い立たせるため「雨ニモマケズ」を読むことにしていました。読む度に勇気を貰えるこの詩がとても好きです。縁あって賢治に興味を持つ仲間と一緒に学ぶことが出来ていることを誇りに思います。

（千田調和）

△「セントラル通信第5号」は、第2回総会の内容と、終了後の懇親パーティの模様を中心編集しました。（向井田薰）

△そうしますと、次の「第6号」は、「第3回全国宮澤賢治学生大会」が、メイン・テーマ「萌え」をテーマとしたキャラクター・デザインについて研究している。

（飯村裕樹）

青森県田子町出身。賢治学生大会では、ホームページ等美術関係を主に担当。大学では、「萌え」をテーマとしたキャラクター・デザインについて研究している。

（木村風友）

学生大会がもつといろんな人に知られ、賢治がもつと近くに感じるようになつていければいいなと思っています。



学生幹事
柴田 良輔
岩手大学生涯教育過程二年

△明治・大正・昭和を生き抜いた、賢治の姿を偲ぶばかりでなく、「賢治の心」を、もっと学びたいですね！（裕）

△毎月の定例研究会も、23回続いているし、その後の講師も面白押しです？（千田調和）

△「賢治の心」を、もっと学ぶことがありますよ！（薰）

△学生の方も、頑張っています。「賢治の音楽を聞く会」もナカナカ好評のようですよ！（千田調和）

△「賢治の音楽を聞く会」も楽ししそうですし、県内各地の「賢治の会」の活動状況は、何かと参考になりますね！（裕）

れ、「宮澤賢治とアザリアの花」を書き続けています。

賢治が生まれた岩手の地で賢治を研究することは貴重だと思います。そのことを活かしてこれからも様々な作品を読み深めていきたいです。

（編集後記）

事務局員 「全員集合」

カット
武野千絆・織田明寿香

宮澤賢治センター通信

○発行
〒102-0185
盛岡市上田四丁目三番五号
電話 ○(0262)667-551
FAX ○(0262)649-3111
E-mail:kennji@iwate-u.ac.jp

○印刷
杜陵高速印刷株式会社
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 岡田幸助
お手伝いを続けて行きたいと思っています。